お菓子の家

小島　楡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
お菓子の家

【Ｎコード】
Ｎ５８８４Ｕ

【作者名】
小島　楡

【あらすじ】
森の中にあるのは「お菓子の家」。そこでアザミが会ったのは……。

アザミは森の入り口で深呼吸をした。
ここ最近の暑さのせいか、むっとするような草いきれに眩暈がする。
木の幹は闇夜に紛れ、木の葉がときどきアザミの顔をなぶる。頭上の月は雲に隠れて、足元は腐葉土に覆われてふかふかだ。転んでも痛くなさそう。これなら暗くても行けるかも。
アザミは頬を手のひらでぱちんと叩いて、森の中に足を踏み入れた。

森の入り口からまっすぐ歩いて一時間。
途中からちらちら光って見えた橙色の灯りが目の前に迫ってきた。かわいい小さなログハウスが森の中にぽっかりと建っている。
ログハウスの入り口に向かって石畳が敷かれ、両脇のハーブからすがすがしい香りが立ち上った。石畳の先には階段があり、階段を上がりきった場所は半円形のデッキになっていて、すわり心地のよさそうなベンチと猫足の丸テーブルが置いてある。
ベンチ前を通り抜けると焼き鳥の匂いが漂う。扉が少し開いていて、そこから漂ってきているらしい。アザミのおなかの虫が鳴いた。
扉の脇には小さなプレートが掛けてあった。「お菓子の家」ここか。
アザミが思い切って扉を手前にひくと、中からかすれた女の声がした。
「いらっしゃいませ〜。居酒屋『お菓子の家』にようこそ〜」
「つーか、うちの旦那をなんとかして欲しいわけですよっ。聞いてくださいよ」
アザミはこぶしを振り上げて、愚痴いいまくり大会に突入した。

酒を飲むのがひさしぶりなせいか酔いが回ってきた。
「ちびが夜泣きしても知らんぷりしてテレビ見てたり、幼稚園の行事の手伝いをまるまるあたしに押し付けるの。ひとりで子育てしろってか、あいつは～」
「はあ、大変ですねえ」
足元のムクイヌがビールを飲みながらいい加減に相槌を打つ。かすれた声は絶対酒の飲みすぎのせいだ。
「だけど旦那さんもあれでしょ、なんでしたっけ。うちゅ？」
「うん、うつ病。そりゃ本人も大変かもしんないわ。でもねえ、まわりだって大変なんだから。ちっとぐらい子育て協力したって罰あたんないわよっ。あの非協力的な態度は絶対うつだからってだけじゃない。もともとめんどくさがりなのよう！」
アザミはカウンターの上の大皿から焼き鳥をがしっとつかんで漢らしくほおばった。うまいわ、これ。たれの調合教えてもらわなきゃ。
すっかり気に入って焼き鳥をおいしくいただいていると、ムクイヌがさらっと笑った。
「あははー、ありがちー。哺乳類の父親はあんまり子育てしないもんらしいですからねー」
「そうなの？」
「五パーセントぐらいらしいですよ、子育てする父親って。鳥類の父親はけっこう子育てするみたいですけど」
「ペンギンとか？」
ムクイヌが口をもぐもぐさせながらうなずいた。
「ペンギンもですけど、このへんだったらツバメも子育て熱心です。もうすぐ六月に入りますから今頃は子育ての相手探しをしてますよ」
「恋の季節ってことかあ」
アザミは新しい皿に塩味の焼き鳥を移しつつ、遠い目で自分の結婚前を思い返した。今から数年前の話だというのに、もう十年以上昔のような気がしてくる。

「アザミさんもそんなに旦那さんへの不満が溜まってるなら、いっそ離婚して新しい彼氏を見つけたらどうですか」
「え？」
思いがけない提案にアザミが戸惑っていると、ムクイヌが外に向かって合図した。
「カレ、もうすぐ鳥類に進化する予定です。お勧めですよ」
ムクイヌが鼻先を窓の方に向けた。アザミも釣られて後ろの窓を振り返る。
地震と間違えるような地響きのあとで、窓いっぱいの大きな爪が店の灯りを反射してぎらりと光った。

「いきなり彼氏紹介は焦りすぎでしたかねー」
ムクイヌの言葉に窓の外の爪がしょんぼりと落ちた。
「まあ、気を落とさないで。また鬱憤が溜まった誰かがおいでになるかもしれませんよ」
窓辺の誰かが向きを変え、地響きが次第に遠ざかる。揺れるハーブの香りに混じって店内に血の匂いが立ち込めてきた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5884u/

お菓子の家

2011年10月9日08時12分発行